

かけはし

ボランティアの輪が
限りなく広がって
人と人との
「かけはし」になるよう
願いをこめて・・・

『水戸市社会福祉協議会 災害ボランティア活動対策本部』の 災害支援ボランティア活動に協力



大量のがれきも人海戦術で



バケツリレーでがれきの運びだし



室内の片付け中



6/25 に報告会が開かれました



千羽鶴は県社協を通して東松山市立大曲小学校へ送られました

対策本部で陣頭指揮に当たられた、社会福祉協議会の井上次長さんにお話をいただきました。

平成23年3月11日14時46分に発生した「東日本大震災」は水戸市内にも甚大な被害をもたらしました。ライフラインや移動手段のガソリンなどの確保が難しい中、水戸市社協は被災者が一日も早く最低限の生活を取り戻せるよう『災害ボランティア活動対策本部』を3月13日10時に福祉ボランティア会館内に立ち上げました。

本部では、災害が広域のため被災者の支援対象範囲を一人暮らしの高齢者・高齢者世帯・障がい者世帯などとし、要援護者の安否確認と支援ニーズの調査を地域の民生委員に協力依頼、また、ボランティアの募集やボランティアがスムーズに活動出来るよう器材の整備を図り、特にボランティアの移動の足としての自転車やブロック塀の鉄筋を切る道具を新たに購入しました。

本部の活動班には、市ボランティア連絡協議会と連携した受付業務やボランティア活動者への炊出しなどに協力をいただきました。

市内外から多くのボランティア（個人666名39団体）登録をいただき、6月15日現在180件の支援要請に対応してきました。テレビや食器棚などの倒れた家具を起こして室内の清掃、ブロック塀・大谷石の片づけや救援物資の整理など被災者のニーズに合わせた支援活動が進められてきましたが、支援要請の中には危険を伴うものや専門的な活動のために対応出来ないものもありました。

今後「東日本大震災」復旧復興は、東北3県を中心にボランティアの支援活動が続く中で、ボランティアセンターの役割としては、災害支援ボランティア活動がスムーズに展開できるような体制作りや日頃からの災害時の対応マニュアルづくりなど、支援のあり方を考えてまいりたいと思いますので、今後とも連絡協議会のご支援ご協力賜りますようお願いいたします。（井上談）

水戸市ボランティア連絡協議会総会 および 講演会開催



加藤前市長を来賓にお迎えしての
名雪会長のあいさつ



聴講される会員の皆さん



岩上さんの楽しい講話

平成23年度水戸市ボランティア連絡協議会総会が、4月9日茨城県立青少年会館で開催されました。今年度は会則の一部改正が提案されました。内容は、年会費1サークル1,000円を2,000円にするもので、満場一致で承認されました。なお実施は24年度からです。

他に22年度事業報告・収入支出決算、23年度事業計画・収入支出予算等が承認されました。なお、4月1日現在の登録会員は76サークル・7個人です。

最後に水戸市社会福祉協議会から、東日本大震災のボランティア活動の報告がありました。

総会終了後、水戸市社会福祉協議会会長の岩上堯（たかし）さんによる「言葉の力と健康」の講演会が催されました。大好きな大月みやこの歌を口ずさみながらの講話に、総会でこわばった体や心がすっかりほぐされ、笑いの渦となりました。感心・感動・感謝は人生の「三感王」との話に、皆さんうなずいておられました。

平成23年度行事計画

- | | |
|---|---------------------------------|
| ①ボランティア連絡協議会サークル研修会
平成23年7月10日（日） 10時～16時 | 水戸市福祉ボランティア会館
実施済み（本誌4ページ参照） |
| ②第10回ボランティアまつりinミオス
平成23年10月16日（日） 10時～15時 | 水戸市福祉ボランティア会館 |
| ③ボランティアサークル研修・交流会
平成24年1月22日（日） 10時～15時 | 水戸市福祉ボランティア会館 |

茨城県共同募金会より特別配分金交付される

このたび本協議会の今年度事業「地域住民の安全と健康づくりを目指す推進事業」に対し、平成23年度茨城県共同募金地域福祉特別配分金が交付されるとの通知をいただきました。

平成21年度は「防災・防犯に関する知識向上・普及事業」に対して、また22年度は「安心・安全な地域づくり推進事業」に対して助成をいただいております。今年度も皆様の協力により、力いっぱい取り組んでまいります。

平成23年度特別配分金交付額

340,000円

いきいきボランティア

地域を守る “浦島太郎”



とも べ 友 部
たか よし 隆 吉

プロフィール
昭和13年生れ
水戸市赤塚1丁目在住
「赤塚防犯協会」在籍

◎ ボランティアを始めたきっかけは？

高校卒業以来定年まで、約45年間の大半を、東北・北海道で公務員として勤務してまいりました。郷里である赤塚に帰郷した当時は、街も人も大きく変化し、浦島太郎のような感じになり、さびしくなったことを憶えております。

そんな折、先輩から赤塚防犯協会に入会を勧められて、喜んで入会しました。
昔からの知人は3~4名でしたが、絆の一角が出来ました。

◎ どんなボランティアをしていますか？

- ・赤塚1・2丁目及び東赤塚地域の巡回パトロール
- ・同上地域の青色灯車による巡回パトロール
- ・同上地域の小学1年児童の下校時サポート
- ・水戸駅前における防犯活動イベントへの参加



◎ ボランティアをしていて感じること

ボランティア活動は、範囲が広くかつ個人活動から団体活動と、多種多様であり、円滑な活動を実施するには、「ボランティア連絡協議会」の存在が重要であることが分かりました。

◎ 若い人へのメッセージ

若いときから、趣味や何か打ち込めるものを見つけて、仲間作りに励んでください。

ちよつと ひとこと

“ボランティア活動”は、私にとってライフスタイルの一部です。子どもの頃から、海岸清掃、子ども会ゲーム指導、青少年団体での企画運営や引率など、様々な活動をしてきています。

約10年前、自分も子育てが始まり、子連れで不便なこと、近所に小さな子どもがいなくて同年齢との交流がない、安心して遊べる場所がわからないなど悩んでいました。そんな時に「子育て応援・ペンギンくらぶ」に出会いました。

子育て目線の情報提供、託児付講座でリフレッシュ、同年齢の子どもと一緒に交流など、私の求めていたイベントがあり満足できました。だから今は、スタッフをしています。

私はこれからも、自分のできる範囲でできる事をやっていきたいと思えます。

また、誰もが過ごしやすい街、思いやりのある社会になることを願っています。

(齊藤 恵)

“楽しい語らいのひとときを”の想いではじまった「イブニングサービス」夕食作りも早や200回を数える。月1回の調理を任せられ、献立、買物、季節感を、栄養バランスは、若い人の今どきの食考、食感は、デザートも付けて、さあメニューは？

毎回30食前後、前日の夕方参加者が決まる。体調、気分が急変する元気が多々あるのでぎりぎりまで待つ。当日参加したくなる方も出来る限り受け入れるようにする。

メモを片手に、食材の変更は毎度のこと。予算内で如何に美味しく作れるか。LLのスイカを等分に、知恵をしぼる。盛り付け、色合い、あったかい品は最後に作る。追い込みです。食器の並べ方は「左前 何ですか」やっと会食「おいしい」の一言で、3時間の立ちっぱなしは何処へやら。この楽しき出会いに「ありがとう」いつまでも。

(小林 恒子)

ボランティア連絡協議会サークル研修会開催



パッククッキングの実習

実演を交えた講演

真剣なグループ・トーク

当初開催が危ぶまれた今年度のサークル研修会でしたが、7月10日「安心・安全な地域をめざして」をメインテーマに開催することができました。

1部では、塙章一氏（はなわ歯科医院 医院長）の「食による人にやさしい・健康なまちづくり」の講演およびパッククッキングの実習を昼食をはさんで受講しました。

『ベットから椅子へ・椅子から外へ』を合い言葉に健康づくりを実践している塙さん。その親しみのある語り口で「食べる・飲む」の基本的なしくみから始まり、人にやさしい街で普通に生活できることの大切さや、「楽食」のできる環境づくりの大切さを今回も熱っぽく語り、約60人の参加者を魅了しました。

後半は、大震災直後の盛岡での滞在中の体験、口腔ケア連絡会の支援活動について歯科医師独自の観点での報告がありました。

2部は、「被災体験から再度考える《その時私達は何が出来たのか》」のグループ・トークを6班に分かれ、1時間余りにわたって実施しました。被災時には、「普段のつながりの大切さ・情報をどう得るかの重要性」などが話し合われ、今後のボランティア活動につながる研修会となりました。

事務局からのお知らせ

◎ ボランティア活動パネル展示会が開催されます。

展示期間：平成23年7月26日（火）～8月28日（日）（月曜日は休館）

会 場：水戸市福祉ボランティア会館ロビー

◎ ボランティアのためのパソコン相談コーナーが、毎月第2土曜日（10:00～12:00）

ミオスにて開催されています。ぜひご利用ください。

水戸市ボランティア連絡協議会役員名簿

会 長	名雪 マサ子			
副 会 長	藤田 絹代	平沼 賢治		
運営委員	小林 恒子	安蔵 秀彦	谷萩 美智子	安藤 隆子
会 計	学之 靖子	桧山 孝		
書 記	塙 昌子	戸沢 一夫		
監 事	清水 康男	川隅 弘子		(任期 H23/4～H25/3)

編 集 後 記

第25号をお届けします。この号から新広報委員が担当します。

（谷萩、安藤、藤田、戸沢、桧山、小林、川崎、齊藤、友部）

ご協力よろしく申し上げます。

編集・水戸市ボランティア連絡協議会広報委員会

（題字 永谷典子）

発行・水戸市ボランティア連絡協議会

〒311-4141 水戸市赤塚1-1 ミオス2階

水戸市社会福祉協議会ボランティアセンター内

電話 029-309-1011 FAX 029-309-1139

ホームページ <http://www.mito-syakyo.or.jp/>